

生き物豊かな諏訪湖願う

創生ビジョン推進会議が水草学習会

小中生ら稚エビ1600匹放流

諏訪湖の課題解決に官民協働で取り組む諏訪湖創生ビジョン推進会議は13日、水草学習会を諏訪市の諏訪湖ヨットハーバーで開いた。地元の小中学生や構成団体のメンバーら約70人が参加。大量繁殖が課題となる水草ヒシや諏訪湖にすむエビについて知識を深め、湖畔で稚エビ約1600匹を放流した。

(松本佳林)



バケツに入った稚エビを諏訪湖に放流する子どもたち

諏訪市と市教育委員会の「すわ未来創造『子どもゆめプロジェクト』」と連携し、ヒシの抜き取り作業に先立って実施。市内小中学生の探究的な学びと体験の場にした。

学習会では県諏訪地域振興局環境課と県水産試験場諏訪支場の担当者が講師を務め、水草の種類や役割を紹介した。湖面に葉を広げるヒシは水質浄化に一定の役割を果たす一方で、沈水植物の生育を阻害したり水中の酸素量を減らしたりするマイナス面もあると指摘。諏訪湖のエビについては漁獲対象であるとともに、エビが水生生物の死骸などを食べて魚類や鳥類に捕食されることで「食物連鎖のつなぎ役になる」と伝えた。

成したヌカエビ1000匹とスジエビ600匹。子どもたちは「行つてらっしゃい」などと呼び掛けながらバケツを傾け、優しく水中に送り出した。ゆめプロジェクトのメンバーで城南小学校5年の林真央さん(11)は「ヒシ以外にもいろんな水草があると分かった。エビや生き物がたくさん育つきれいな諏訪湖になってほしい」と話していた。

放流後は参加者が交代で船に乗り、手作業でヒシを抜き取った。

釜口水門近く ヒシ抜き取り

岡谷市など体験事業

岡谷市と環境市民会議おみや、諏訪湖漁協は13日、諏訪湖に繁殖するヒシの除去体験事業を同市湊の釜口水門近くの湖上で行った。一般市民も含め83人が参加し、船で湖上に出て手作業でヒシを抜き取った。

諏訪湖の浄化と自然環境保全への意識向上を目的に、2012年から毎年この時期に行っている事業。交代で船に乗って沖合に向かい、湖面に広がるヒシを船に積み上げて



この日除去したヒシは約3000kgだった。

船に乗って湖上のヒシを抜き取る参加者。20日には岡谷でもエコクラブでもヒシの除去を体験することにしており、合わせて堆肥化する。環境市民会議おみやの小口みさ子会長は「湖面にじかに触れることでヒシの問題を肌で感じられる。多くの人に体験してほしい」と話している。